



山梨県民から長く愛されてきた公園に 新たな遊具を整備するための支援を実施

山梨県遊技業協同組合
「青少年育成と障害を持つ子供たちの
ための遊具設置事業支援」事業



山梨県遊技業協同組合
理事長
星野 謙さん

開園50周年を機に整備が進む 公園に誰もが楽しめる遊具を

「山梨県立愛宕山こどもの国」は、子どもの健康を増進し、情操を豊かにすることを目的に、JR甲府駅の北東、甲府盆地を見渡せる里山に1971年に開園した公園で、2021年には開園から半世紀を迎えた。公園を訪れる子どもたちにとって最大の楽しみは、里山の傾斜地に設置された巨大な複合遊具で遊ぶことだったが、開園から50年が経過し、一部の遊具などは経年劣化により、使用が停止されるなどの状況にあった。そのため山梨県では、開園50周年を機に施設の改修や景観の整備を行うとともに、自由広場に斜面を活かした新たな遊具を整備することにした。また、この公園はこれまで、障がい者に配慮した遊具が設置されていなかったが、新たに設置される遊具は、障がいの有無や身体の強弱、人との関わりが苦手など、多様な子どもたちが楽しむことができるインクルーシブな遊具も併せて設置されることになった。しかし、里山という特殊な地形のため、遊具の整備費用が高く、財源の確保が課題であった。

そこで山梨県では、クラウドファンディングなども活用して資金を集めることにしたが、その趣旨に賛同した山梨県遊技業協同組合（以下、山遊協）では、クラウドファンディングを介して山梨県に100万円の寄付を行うことにした。2022年11月14日に山遊協の星野謙理事長が県庁を訪れ、山梨県子育て支援局の関係者などが見守るなか、長崎幸太郎知事に目録を手渡した。それに対し、長崎知事からは感謝状とともに、「親子3代の心の故郷になるような場所を目指しています。後押しをしていただきありがとうございます」と、感謝の言葉があった。目録贈呈の様子は、地元テレビ局のニュースで報道されたほか、地元紙の記事としても掲載された。2021年から始まった整備工事は2023年3月に完了、4月26日にリニューアルオープンを迎えた。なお、園内の記念碑には寄付のお礼として山遊協の名称が刻まれることになった。



山梨県庁で行われた贈呈式



遊具設置支援事業に対し贈られた感謝状



緊急の支援を必要とする生活困窮者に 一時的な食料給付で自立に向けて支援

奈良県遊技業協同組合
「奈良県フードレスキュー
(緊急食料支援)事業に寄付
～平成27年からの事業～」事業



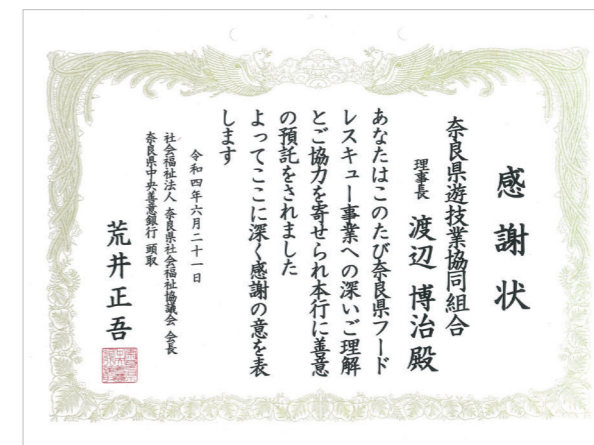
奈良県遊技業協同組合
理事長
渡辺博治さん

県が行う緊急食料支援事業を 毎年寄付を行うことで支える

社会福祉法人「奈良県社会福祉協議会（以下、県社協）」では、福祉課題や生活上の困難を抱えている方々への支援を幅広く行っているが、そのなかには、その日に食べるものにも事欠く人もいます。そのため県社協では、そういった緊急の支援を必要としている方々に寄り添い、安定・安心した生活に向けた相談支援につなげていくための取り組みとして、2015年度から「奈良県フードレスキュー（緊急食料支援）事業」を行っている。具体的には、現金や食料が底をついた状態で福祉窓口相談に訪れた人に、実際に生活福祉資金の貸し付けなどが開始されるまでの数日間、緊急一時的に食料を現物支給することで、生活を支えていこうという制度である。提供窓口は県社協をはじめ県内各市町村の社協で、各窓口にも事業用の食料品（レトルト食品、缶詰、乾麺、粉ミルクなど）が常備されている。

なお、この事業に協力してくれる企業や団体などからの食料品や金品の寄贈も受け付けているが、奈良県遊技業

協同組合（以下、奈遊協）ではその事業趣旨に賛同し、事業開始初年度から毎年継続して寄付を行い、2022年度までの総額が230万円となった。事業を担う県社協生活支援課からは事業報告書が定期的に奈遊協に送られてくるが、例えば2022年1月末時点に送られた報告書によれば、2021年4月～22年1月までの食料支援件数は延べ208件、提供食品数は延べ4,460食となっている。同報告書には、新型コロナ禍の影響で就業に困難をきたした方に対して、生活福祉資金のコロナ特例緊急小口資金貸し付けが行われるまでの間、食料支援を行った支援事例なども掲載されており、奈遊協では活動の意義を実感している。奈遊協では組合実施の社会貢献ゴルフコンペなどの機会に寄付贈呈式を行うなどして、活動について県民に広くアピールしている。また、毎年開催される奈遊協の総会の場で、県社協から奈良県知事名の感謝状を受領している。



奈良県フードレスキューへの寄付に対し贈られた感謝状